

※新聞記事のレイアウトを変更しております。

【質問】 4月からロボット手術が認定されたと聞きました。ロボットが手術する時代になったのでしょうか。

(20歳、大学生)

## ロボット支援手術

【回答】 正確には、ロボット支援手術であり、ロボットが直接手術を行うわけではありません。

現在、多くの手術が、胸やおなか（胸）に小さな穴を開けて、そこからカメラと鉗子を入れて行う手術が主流となっています。これを腹腔鏡手術と呼んでいます。最大の利点は、患者の負担が少ない「低侵襲」であるため回復が早いこと。加えてカメラが臓器の裏側にも入ることができるため、術者の手の感覚でしか確かめ



られない場所も、直接目で見て処理できるようになったことです。

## 人間より高度で細やか

## 新しい医療の幕開けに

その一方で、鉗子は棒のような硬い道具ですので、処理する場所が目に見えていても鉗子をそこまで到達させることができない、また小さな動きに対して上手に扱うことが

メリカで開発された手術支援ロボットです。

ロボットのアームは七つの関節があり、人間よりもスムーズな動きが可能ですし、手を10ミリ動かしても2ミリしか動かない設定にすることで小さな作業が楽に行えるようになります。画像是高性能の3D

の報酬改定で、消化器、肺、心臓、ぼうこう、子宮の12の手術にも適応が認められました。ですが、今すぐ多くの人がこの手術の恩恵を受けられることができません。ダヴィンチは県内では長崎大に1台導入されているだけです。今回の改定では、鏡視下

で拡大し、実際の目で見ると以上に術野をきれいに見ることができると言われています。こうしたことから今まで以上に高度な手術ができるようになります。

前立腺がん、腎臓がんの手術にしか適応が認められていませんでしたが、今回手術と同じ診療報酬となり、これでは1台3億円といわれる購入費用をまかなうのは難しく、病院ですぐに導入することは困難です。また、新技術の習得にも時間がかかりました。

しかし、ロボット支援手術は術者にも大きな恩恵を与えます。医師の外科離れが進む中で、外科手術の新しい魅力としてアピールするには良い機会です。また、このロボットは遠隔操作が可能で、将来は都市部から地方にいる患者の手術を行うことができるようになることも期待されています。

### 質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。